

東北広域次世代がんプロ養成プラン 共催セミナー実施報告書

(本報告書は東北広域次世代がんプロ養成プラン HP へ掲載させていただきます)

(セミナー名称) 第 685 回宮城産科婦人科学会集談会 / 宮城県がん・生殖医療ネットワーク年次総会
1. 担当分野 婦人科学分野
2. 実施年月日 令和 7 年 1 月 11 日 (土) 15:30~17:45
3. 開催場所・開催方法 宮城県医師会館 2 階 大手町ホール
4. 関連分野・領域 産婦人科 生殖医療従事者等
5. 対象者 主に産婦人科領域の医師・がん医療従事者・がん研究者・生殖医療従事者
6. 参加者について 参加者合計人数:76 名 以下の内訳について教えてください 学内参加者数:21 名 学外参加者数:55 名 東北大学、弘前大学、秋田大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学、岩手医科大学での 参加大学数:0 名 上記がんプロ連携大学、協力大学以外の参加大学数:2 名 なお、他の内訳もございましたら、以下にご記載ください(医師、薬剤師、看護師、など) 医師:64 名 看護師:2 名 胚培養士:3 名 検査技師:2 名 臨床心理士:2 名 県職員:2 名 大学院生 1 名
7. 成果 東北大学病院の乳がん患者の生殖カウンセリング受診率は 10%程度と低く、さらなる周知が必要とのことだった。また、一度流産を経験すると健児獲得の希望が芽生え規定の治療休止期間を逸脱する患者も多いというお話も印象的だった。Onco TESE は訓練を積み胚培養士が行うこともでき、今後の普及の可能性に未来を感じた。ただし何より大事なものは治療開始前のいち早くの紹介と射出精子の回収であり、このことも周知や連携体制の強化が必要である。特別講演では滋賀県のがん・生殖医療ネットワークをゼロから作り上げていく取り組みを知り、刺激となった。

【当日の会場の様子などの写真がございましたら、添付ください】

